

専大スポーツ

【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

No. 462



グレコ 60kg級

榊が準優勝

アジアの切符つかみ取る

JOCジュニアオリピックカップU20全日本レスリング選手権大会(4月26日、横浜市・横浜武道館)

専大から12人が出場し、グレコロマン60kg級で榊太(経済3・葦崎工高)が準優勝と好成績を収めた。

榊は1回戦から4回戦まで、すべて8点差をつけるテクニカルスベリオリティで表彰台入りを確認させた。続く準決勝は青学大の高橋柊生選手と対戦。開始4分にテイクダウンで奪った2

点が決め手となり3-1で粘り勝ち。決勝戦は青学大の中島拓摩選手に敗れた。

今大会の結果、7月にキルギスで行われるU20アジア選手権の出場権を獲得した榊は「今回見つけた課題も含めて、さらにレベルアップしていきたい。高校時代に出場した世界選手権では思うような試合運びができず、悔しい思いをした。これまでの経験を生かして、海外の選手と渡り合えるように頑張りたい」と意気込みを語った。(知地泰雅・文3)

黒鷲旗初出場 善戦ベスト8

全日本バレーボールVリーグ所属のクラブチーム、大学・高校の全6日、大阪市・ASUEアリーナ大阪

選抜大会(5月3日)で黒鷲旗を争う大会に、専大はインカレ優勝校として初出場した。Vリーグの兵庫デルファイ、埼玉アザレアと対戦した予選グループは1勝1敗の2位で突破。しかし、決勝トーナメント1回戦で今大会を制した早大に敗れ、ベスト8で今大会を終えた。

マサジェディ翔蓮(文1・福岡大附属大濠高)は「相手チームはディグ(スパイクレシーブ)や、繰り返しのコンビがしっかり合っているという中で、自分たちは逆に決めきれないで負けてしまった。基本的なプレーで大きく違いが出た」と振り返った。レシーブでチームを鼓舞し続けたリベロの水野永登(商4・岡谷工高)は「課題はいつもと変わらない。それが逆



打点の高いスパイクを放つマサジェディ

前半戦終え3位

東都大学野球春季リーグ戦(2部)第2(3週)4月16日、30日、大田区・大田スタジアム

第2週の国士大戦を2勝1敗で制して今季初勝ち点を獲得し、勢いに乗る専大は第3週で立正大と対戦した。7-6、



復帰登板で初勝利を挙げた伊東(立正大1回戦) 撮影：門前咲良(文3)

獲得した。今カードでは肘のケガを乗り越え1年半ぶりの復帰登板を果たした伊東賢生(経済3・千葉黎明高)は「苦しい時期にやってきた練習が、結果に表れたのかなと思ってる。先発でも中継ぎでもいけるように頑張りたい」とチームへの貢献を誓った。

リーグ戦は折り返し地点を越え、3チームが勝ち点2を獲得。勝率の差で3位の専大だが、首位で並ぶ拓大、東農大との対戦を残しており、5季ぶりの優勝を視野に捉えている。(知地)

ベスト8に 下村、田内

男子エペ 13人が全日本選手権へ

日本学生フェンシングカップ(個人戦) 4月25日、27日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場

男子エペで下村祐翔(人間科学2・岩国工高)、田内溪(商2・大垣南高)がベスト8に入った。

下村はベスト4を懸けた準々決勝で、立教大の山口竜之介選手に8-15で敗れ「山口選手の対策を先輩と考えたが、うまく実践できなかった」と悔しがった。今季初戦は消化不良に終わり「タイトルを取れるように練習したい」と話した。

昨年は予選落ちと悔しい経験をした田内は「今回は成長を感じられ、納得のいく内容だった。どんな状況でも淡々と自分のすべきことができた」と手応えをつかんだ。

なお、今大会の結果、男女合わせて13人が全日本フェンシング選手権大会の出場権を獲得した。(竹田一爽・文4)

男子S 薛、久保が4強入り



関東学生卓球新人選手権大会(4月24日、26日、埼玉県・所沢市民体育館)

男子シングルスで、薛大斗(経営1・遊学館高)と久保賢輔(文1・希望が丘高)がともに準決勝に進出し、4強入りした。

薛は「緊張してしまっただけで、得意のバックハンドサーブでチャンスをつかみ、得点を重ねるスタイルで勝ち進んだ。準決勝については、「思い通りのプレーができず、ミスが多かった。もっと練習を積んでいきたい」と振り返った。

久保は、準々決勝で昨年のインターハイ王者・小野泰和選手(中大)に勝利。「目標にしていた小野選手に勝つことができてうれしい」と笑顔を見せた。「レシーブで思い切って攻めたり、台から離れずに攻撃したりすることができた」と勝因を語った。(中島胡春・ネット情報3)写真も)

世界見据える専大初の女子相撲部員

専大相撲部史上初の女子部員として、本学の門をたたいた河本優心。高校3年時には全日本女子相撲選手権大会の一般55kg未満級で優勝するなどの実績を誇る彼女は、伝統ある専大相撲部で新たな挑戦を始めた。

兄弟が相撲を始めたことをきっかけに競技を始めた彼女は、強豪校である鳥取城北高校で腕を磨いた。進路を考えた。大学入学直後の4月、国際女子相撲選抜大会の65kg未満級に出場。2回戦敗退と悔しい結果に終わったが、「これからはもっと体重を増やして、世界大会に選ばれるように頑張りたい」と次なる目標を見据えた。

入学から1カ月以上がたち、稽古を通して感じた高校との違いについて「高校では実戦重視の練習をしてきたが、大学ではそうした時間が限られている。トレーニングや食事の内容も考えていきたい」と主体的に練習に取り組む姿勢を見せる。

女子相撲の新たな一歩を踏み出した河本。世界での活躍を目指し挑戦を続けている。(中島)



相撲部 YURA KAWAMOTO 河本 優心 (経済1・鳥取城北高)

専大スポーツ 編集部 公式 WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

@sensuponow Instagram sensuponow